

いなぎ健康かわらばん！



Vol. 101
H29.04

いよいよ春です！

待ちに待った春が到来です。思えば冬至を過ぎ、春分の昼夜の分け目の日を過ぎ、コレでいよいよ寒くなるの要素なし！（でありたいですが・・・）となりました。「暖かさ」まで一直線でございます。年々この季節は進級、進学、入社と華やかかつフレッシュなことばかりです。是非皆様にも華やかなスタートを切って頂ければと思います。

さくら・・・

この季節、目にとまるといえば桜の花です。確か去年のかかわらばんでしたか、基本的に江戸時代の「吉野桜」とほぼ同じであると述べました。もう少し補足しますと、一個体を接ぎ木などで増やし続けた遺伝子の同じ個体、いわゆるクローンであります。最初の一個体は、江戸時代後期の江戸染井村の植木屋が発売した「吉野桜」です。この一個体を他の桜と受精させることなく増やし続けた結果、江戸時代と同じ桜が見れるのです。もちろん、多少の突然変異も存在するそうですが、基本的には昔のままといったところでしょうか。ちなみにソメイヨシノはすべてほぼ同じ遺伝子をもつため、ソメイヨシノ同士で

突然変異・・・

明日の朝起きたら、あら不思議！天才少年になっていた・・・なんて想像は誰もがしたことでしょう。でも人間、そんなに簡単には変わりません。大概の突然変異は生まれつき変わっていることが多いらしく、成長段階で自然に、徐々に変わる突然変異は少ないようです。（もちろん強制的な遺伝子破壊や書き換えなどを行えば別でしょうが）医療界では遺伝子技術を用いた治療もあるので、難病に効くような良い技術で発展して頂ければよいですね。

さて、その突然変異の例として、

- ①アルビノ(いわゆる先天的なメラニンの欠乏により体毛や皮膚は白くなってしまふ症状)。
- ②双頭(頭が2つ存在する)。
- ③無毛(頭だけではなく、全身において)。
- ④オッドアイ(虹彩異色症、両目の色が違う。犬や猫に発症する場合があります。もちろん人でもあります)。
- ⑤多肢(通常より手足の数が多し)。通常とは見た目が違うため、一瞬驚かされますが、奇形でない限り、機能は通常と変わりません。しかし、アルビノは日光による皮膚がんなどのリスクがあるそうです。

筋肉量を制御している遺伝子の突然変異が原因で、人間で確認されたのは初めて・・・

ドイツの医師が5年ほど前、手足の筋肉が異常に太く発達した男の新生児を発見。超音波検査をした結果、通常の約2倍の量の筋肉を持っていることが分かった。この男児は元陸上選手の母親から生まれ、ドイツに住むというほかに詳細は明らかにされていない。AP通信によると、5歳近くになり、3キロのダンベルを軽々と持ち上げるという。男児の遺伝子を詳しく解析したところ、筋肉の増大を抑えるたんぱく質ミオスタチンに関する遺伝子の突然変異があった。父母の双方から変異を受け継いだらしい。遺伝子操作でミオスタチンを持たなくしたマウスは、筋肉量が2倍になることが報告された。牛でも同様の研究がある。研究チームは「人体でもミオスタチンが筋肉量を調節しているのが分かったのは初めてだ」と説明している。ミオスタチンは、筋ジストロフィーの治療法の開発に役立つと期待される一方、運動選手の新たなドーピングにつながるの懸念も

当院は痛みや不快症状を相手に患者さんとともに戦っています！

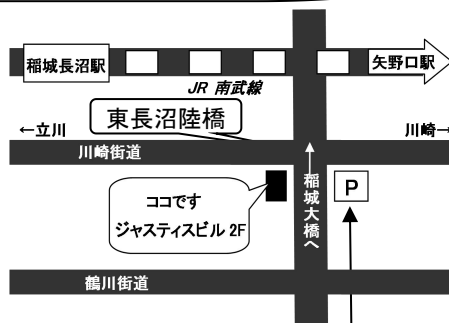
<受付時間> AM9:00~PM7:00(予約優先)

<休日> 日曜日、祝日、水曜日の午後

稲城市東長沼823シヤスティスビル2F



クロサワ整体院



※お車の方は予約時にお申し付けください。